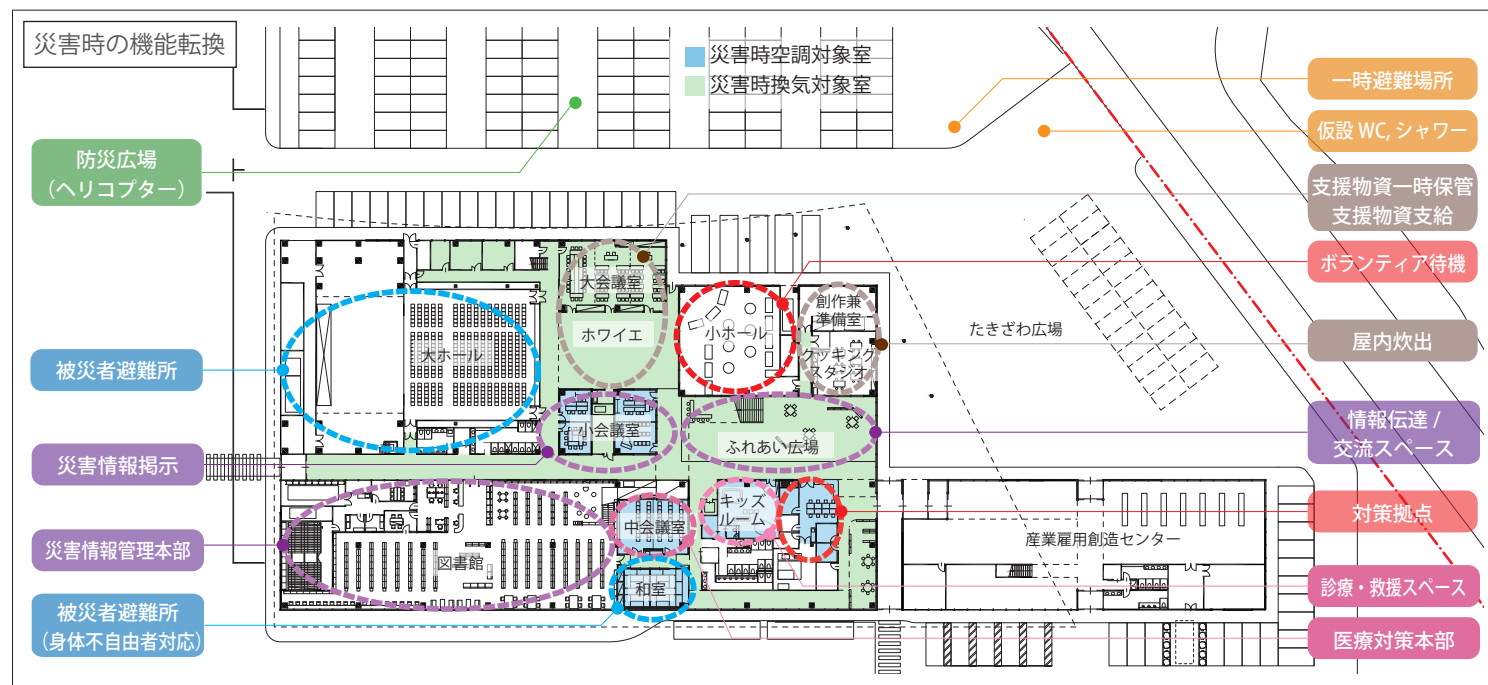
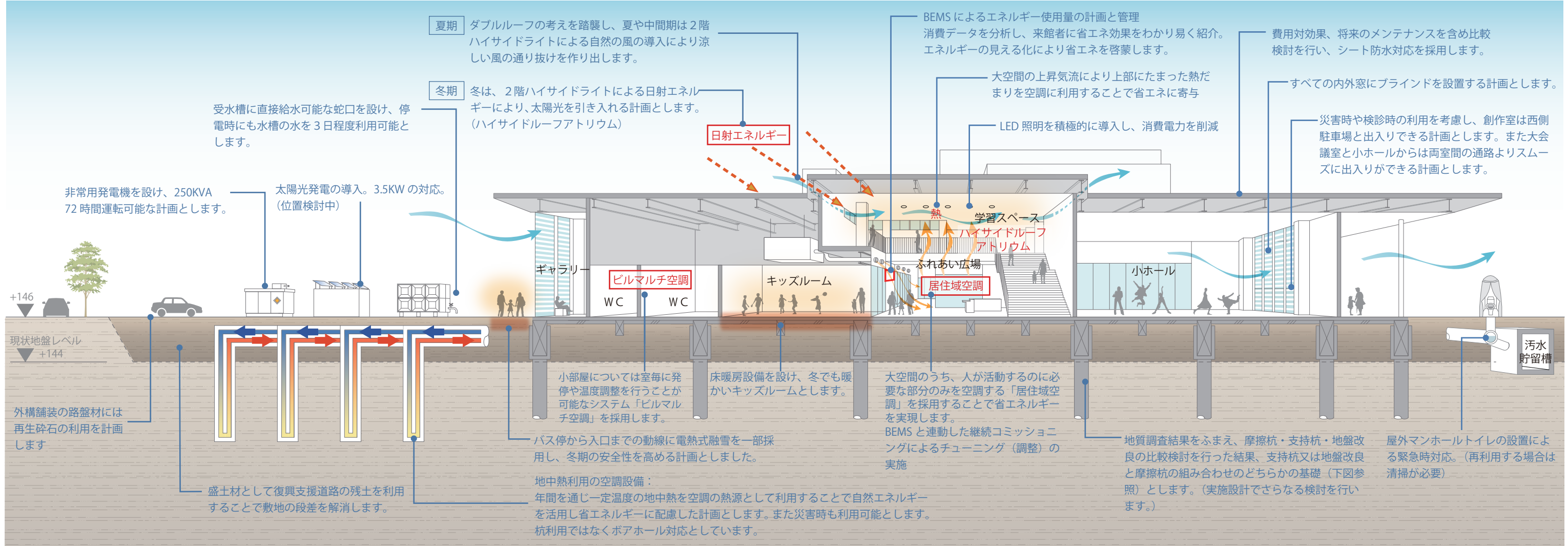


環境に与える影響を極力減らした、「自然や地球と暮らす施設」

- 電力負担の平準化とエネルギーロスの削減を図ります。自然換気、外気冷房による負荷の削減+地中熱利用設備+共用部へのLED照明導入+昼光利用による電力負担の平準化を行います。高効率機器の採用や全熱交換機によるエネルギーロス低減を行います。
- 建築仕様、設備仕様の見直し等により、エネルギー削減30%、ライフサイクルコスト15%削減の計画とします。



**構造・造成・外構防災計画**

■ 構造計画：  
・木材を構造材として利用する場合、法的(建築基準法)に、防火区画を施設内の多くの場所に設置する必要があり、空間の大きな制約や工事費増が見込まれることから、木材の構造材利用の採用を取り止め、鉄骨造に変更します。  
・杭形式については、ボーリングデータを基に比較検討を行った結果、摩擦杭は不向きと判断、「支持杭」「地盤改良+摩擦杭」「地盤改良のみ」の3形式の方向で進める事としました。実施設計において、詳細な解析を行うと共に、盛土による地盤の圧密沈下を考慮した杭の検討を行い、最適な工法を選択します。

■ 造成計画：  
・当初は合理的な造成計画として、敷地内に段差を設ける計画としていましたが、盛土材として、国土交通省で施行している復興支援道路(新川目トンネル)の残土を利用することが可能となり、また敷地内の段差解消要請も受け、当初の段差提案は取り止め、敷地全体のレベル差をなくす計画に見直しました。  
・同時に、段差を利用したアイスシェルターの提案については採用を見送ります。  
・外構舗装の路盤材には、基準強度を満足した再生砕石を利用し、高い安全性を確保するとともに地球環境にも配慮します。

■ 外構防災計画：  
・防災広場は、複合的防災拠点機能の中心。防災訓練の中心となる場で、ヘリコプターの離発着の活動が容易にできるよう計画します。  
・調整池は自然の地盤レベルを利用し、コスト削減を目指すとともに広い面積を確保することで、貯留水深を抑え、軽スポーツ等が楽しめるたきざわフィールドとして整備します。またヘリコプターの離発着の活動が可能となるよう計画します。  
・雨水利用設備の導入については、建設費用、将来の維持費用と水道利用運用費用を比較検討した結果、費用対効果が認められないことから、採用を見送ります。  
・防災井戸設備の設置については、井戸の深さがかなり深いことが想定され、費用対効果が見込めないことから、採用を見送ります。非常時は、受水槽に直接給水可能な蛇口を設置し、停電時にも受水槽貯留分は直接水栓から上水利用を可能とします。

